

〈資料〉

創立より第50回までの総会の内容

- 第1回 1960 (S35) 年11月17・18日 東京
 東京大学理学部2号館
 高木四郎(国立精神衛生研究所 児童部長)
 特別講演(高木俊一郎)「小児の精神身体医学」,
 パネルディスカッション「児童精神医学とその近接領域」,
 一般演題40題
- 第2回 1961 (S36) 年11月21・22日 神戸
 神戸医科大学中央講堂
 黒丸正四郎(神戸医科大学 教授)
 特別講演(西村秀雄)「先天障害の最近の問題—臨床的ならびに実験奇形学的観点から—」,
 シンポジウム「児童神経症」,
 一般演題45題, 約500人参加
- 第3回 1962 (S37) 年11月18・19日 東京
 慶應義塾大学医学部北里講堂
 牧田清志(慶應大学 助教授)
 特別講演(樋口幸吉)「少年非行の問題」,
 パネルディスカッション「精神薄弱へのアプローチ」,
 一般演題63題, 約500人参加
- 第4回 1963 (S38) 年11月16・17日 名古屋
 愛知県市町村会館
 堀 要(名古屋大学 助教授)
 特別講演(村松常雄)「児童精神病理学」,
 Eleanor Pavenstedt「Description of a Research Project on; The Influence of the Maternal Character Structure on the Development of the Child's Personality」,
 シンポジウム「発達機構をめぐって」,
 一般演題61題
- 第5回 1964(S39)年10月1・2日 福岡
 九州大学医学部中央講堂
 池田数好(九州大学 教授)
 特別講演(池見酉次郎)「心身関連の臨床」,
 シンポジウム「こどもの精神療法」,
 一般演題78題
- 第6回 1965 (S40) 年11月4・5日 東京
 東京都児童会館
 平井信義(お茶の水女子大学 教授)
 Hans Asperger「Problem des Autismus im Kindesalter」,
 シンポジウム「日本における自閉症の研究とその将来」,
 一般演題67題
- 第7回 1966 (S41) 年10月29・30日 京都
 国立京都国際会館
 村上 仁(京都大学 教授)
 特別講演(園原太郎)「認知の発達とその障害」,
 シンポジウム「学校精神衛生」,
 一般演題77題
- 第8回 1967 (S42) 年10月7・8日 東北
 東北大学川内記念講堂
 和田豊治(東北大学 教授)
 会長講演「てんかん児童に関する2, 3の精神医学的問題」,
 シンポジウム「児童精神医学の臨床における心理テストの効用と限界」,
 シンポジウム「てんかん児童—特に精神的社会的側面」,
 一般演題89題
- 第9回 1968 (S43) 年11月2・3日 大阪
 大阪厚生年金会館
 金子仁郎(大阪大学 教授)
 シンポジウム1「児童精神科医療体系」,
 シンポジウム2「思春期心性とその病理」,
 一般演題66題
- 第10回 1969 (S44) 年11月21・22日 千葉
 国鉄千葉駅ビル6階大ホール
 松本 胖(千葉大学 教授)
 討論集会のみ
- 第11回 1970 (S45) 年11月14・15日 東京
 野口記念会館
 会長なし
 改革委員会主催の討論会
- 第12回 1971 (S46) 年11月1・2・3日 大阪
 大阪郵便年金ホール

○佐藤 紀子 (慶大神経・日吉病院)
内山 祥子 (日吉病院)

IV. 日本児童精神医学会第1回総会次第

期日 1960年11月17日, 18日

会場 東京大学理学部2号館大講堂

第1日

1. 学校恐怖症の問題
○鷺見たえ子, 玉井 収介, 小林 育子
(国立精研)
大見川正治 (都立教育研)
2. 学校恐怖症の家族の問題
鷺見たえ子, 玉井 収介, ○小林 育子
(国立精研)
3. 学校ぎらいの1少年 馴田 利章 (九大精神)
4. 特殊な発達を示した幼児自閉症の1例
長谷川常人, 牧田清志 (東京長谷川神経科)
5. 小児自閉症の5例 平井 信義 (お茶水女大)
岸本 慶子 (武蔵野日赤)
小泉 英二, 川井 信子, 藤島 輝子
(都立教育研三鷹分室)
6. 幼児自閉症に関する考察
川端 利彦, 畠瀬 稔, 藤本 敦子
太田 美行, (大阪日赤神経)
7. 現実に接してはいるが異様に多動の児童について
斎藤徳次郎 (都立梅ヶ丘病院)
8. 児童チックの研究(第1報)
牧田 清志 他 (慶大神経)
9. 遺尿の指導および治療
新井清三郎 (東北大小児・仙台市精相)
10. 神経症類似の主訴を持った乳幼児(2才11カ月未満)について——ことに名大精神々経科児童部と名古屋市内某小児科病院とにおける外来患者の比較
棚橋千賀子, 若林慎一郎,
富田 順, 他 (名大精神)
11. 3才5カ月の幼児にみられた心因性無言症の1例
○正橋 剛二, 島園 安雄(金沢大精神)
12. 心因性と思われる笑い発作の1例
○岸 嘉典, 岡部 雅夫, 岡部美根子
(金沢大精神)
13. 前思春期の強迫症状 ○高木 隆郎 (京大精神)
川端 利彦 (大阪日赤精神)
14. 恐怖症の1例——面接過程を中心として
○菅野 重道 (日本医大神経)
鈴木美亜子 (多摩児童精相)
15. 強迫洗手の症状を呈した1女児の児童分析例
——その治療状況についての精神分析的な操作構造論からの比較・考察

パネル・ディスカッション

「児童精神医学とその近接領域」

- 司 会 高木 四郎 (国立精研)
精神医学 牧田 清志 (慶大神経)
小児科学 平井 信義 (お茶水女大)
心理学 玉井 収介 (国立精研)
教育学 畠瀬 稔 (京大教育)
ケースワーク 板橋 登美 (宮城中央児相)
16. 初生児, 幼児における筋機能発達に関する筋電図的考察 笠井 勉, 花田 雅憲
(神戸医大精神)
細見 正二, 高野 秀勝 (淡川病院)
 17. 小児における訓練効果の呼吸ガス代謝ならびに筋電図学的考察
笠井 勉, 花田 雅憲
(神戸医大精神)
高野 秀勝, 須並 民雄 (淡川病院)
 18. 筋電図からみた表情筋の発達
花田 雅憲, 高野 秀勝
(神戸医大精神)

第2日

19. 日本脳炎予防接種後脳症を呈し痙攣重積状態で死亡した1例
梅津 光司, 山本 博章
(日本医大村上小児)
○平井 満夫 (日本医大神経)
20. 脳性小児麻痺幼児の治療教育
足立 寿美 (愛育研)
21. 乳幼児精神発達診断の一考察
——乳幼児精神発達質問紙をめぐる——
津守 真, 稲毛 教子 (愛育研)
22. モラルマゾキズム傾向を有する母親との面接について
板橋 登美 (宮城中央児相)
23. 結節性硬化症の8臨床例
○渡辺 位, 松本 胖(国府台病院)
24. 夜尿症とてんかんについて
○長畑 正道, 丸山 博, 鈴木 昌樹
有馬 正高, 福山 幸夫, 岡田 良甫
(東大小児)
25. てんかん児童の臨床的研究 (I)
——知的発育について——
上出 弘之, 栗栖 瑛子, ○山田園子
馬淵 正子 (東大分院神経)
26. てんかん児童の臨床的研究 (II)
——性格行動について——
上出 弘之, ○栗栖 瑛子, 山田 園子

馬淵 正子 (東大分院神経)	池田 数好 (九大教育)
27. てんかん児の精神医学的研究 (第1報) 行動異常と脳波所見との相関 和田 豊治, 後藤 昭, ○本間 定子 (弘前大神経)	○馬場 万寿 (福岡県福向病院) 岡部喜美子 (福岡家裁)
特別講演	33. 精神薄弱の定義と分類について 三浦 隆 (国立秩父学園)
「小児の精神身体医学」	34. 施設内精神薄弱児の被暗示性に関する一調査 西谷 彬雄 (藤倉学園)
高木 俊一郎 (九州厚生年金小児 九 大 小 児)	35. 精神薄弱児の行動スペクトラム (Behavior Spectrum) について 三浦 隆 (国立秩父学園)
28. 群大小児精神衛生相談室の現況 ○竹内 政夫, 中島 清雄, 勝島 芳子 (群大小児)	36. 言語からみた精神薄弱の精神病理学 中根 晃 (都立梅ヶ丘病院)
29. 肢体不自由児療育施設における問題児の研究 ——問題の種類と問題発生の場合—— ○岡田 良甫 (整肢療護園・東大小児) 小池 文英, 小林 いつ, 井門 敏子 (整肢療護園)	37. 幼児の言語の発達障害 ——その鑑別診断について 岡田 幸夫, 増田 稲子, 花田 雅憲 (神戸医大精神) (神戸医大耳鼻) (大阪日赤精神)
30. 臨床対象児の理論的分類とその応用 堀 要 (名大精神)	38. 家庭で乱暴する子供 大槻 克子 (宮城中央児相)
31. フェティシズムの1治験例 宮下 守正 (日本医大神経)	39. 殺人を犯した未就学姉妹の症例 種田真砂雄, 関山 明美, 宮本千鶴子 (精神医学研・東京武蔵野病院)
32. 遊戯治療における初発反応について	40. 児童相談所で扱った家出児について 大竹 太郎 (東京中央児相)

高木俊一郎 (大阪教育大学 教授)

シンポジウム1「自閉症児の教育と医療—
就学期をめぐる—」, シンポジウム2「少
年非行と少年法改正問題」

第13回 1972 (S47) 年11月18・19日 東京
野口記念会館

岡田幸夫 (近畿大学 教授)

シンポジウム1「自閉症児の発達にともな
う諸問題」, シンポジウム2「障害児の薬物
療法をめぐる諸問題」, シンポジウム3「矯
正とは—少年法改正のうごきの中で—」

第14回 1973 (S48) 年11月17・18日 神戸
神戸海員会館市民小ホール

川端利彦 (大阪赤十字病院 副部長)

テーマI「施設の問題—重症児をめぐる—」
8題, テーマII「児童精神科医療における
医師の役割」10題

第15回 1974 (S49) 年11月16・17日 東京
杉並公会堂ホール

中川四郎 (東京学芸大学 教授)

特別講演(茂木俊彦)「障害乳幼児の発達障
碍をめぐる諸問題」, テーマI「優生保護法
改正をめぐる」3題, テーマII「〈障害幼
児〉の保育・教育と医療」16題, 夜間集会
「遊戯療法をめぐる」

第16回 1975 (S50) 年11月8・9日 三重
津文化ホール

十亀史郎(高茶屋病院あすなろ学園 園長)
テーマI「小児てんかんの諸問題」3題,
テーマII「遊戯療法をめぐる」3題

第17回 1976 (S51) 年11月22・23日 兵庫
西宮市民会館

花田雅憲 (近畿大学 助教授)

シンポジウムI「〈診断〉〈判定〉の意味に
ついて」, シンポジウムII「精神病状態にあ
る就学児のとりあつかい」

第18回 1977 (S52) 年11月15・16日 宮崎
宮崎市民会館

近間 悟 (宮崎県立富養園 院長)

シンポジウム「養護学校義務化にむけて—

- 児童精神医学がとわれているもの一」, 一般演題10題
- 第19回 1978 (S53) 年11月4・5日 東京
千代田区民公会堂
藤原 豪 (東京都立梅ヶ丘病院 副院長)
特別講演(堀 要)「これからの児童精神医学」, シンポジウム「思春期登校拒否児童の治療・処遇をめぐる」, 一般演題15題
- 第20回 1979 (S54) 年11月17・18日 香川
丸亀市民会館
今津博市 (香川大学 教授)
特別講演 (村井潤一)「ことばの発達と障害」, シンポジウム「自閉症と言語」, 一般演題15題
- 第21回 1980 (S55) 年9月20・21日 札幌
札幌市民会館
山下 格 (北海道大学 教授)
会長講演「精神疾患への精神生理学的アプローチ」, シンポジウム「心身障害児への多面的アプローチ」, 一般演題45題
- 第22回 1981 (S56) 年10月17・18日 長崎
長崎市民会館
川崎ナヲミ (長崎大学 教授)
特別講演 (L. Wing)「英国における自閉症児の処遇と全国協会の役割」, シンポジウム「自閉症児の処遇」, 夜間集会, 一般演題32題, 576人 (正会員204, 当日会員332) 参加
- 第23回 1982 (S57) 年10月21・22日 仙台
仙台市民会館
白橋宏一郎 (国立仙台病院 医局長)
シンポジウム「児童期のうつ状態をめぐる」, 一般演題48題, 693人 (正会員372) 参加
- 第24回 1983 (S58) 年10月1・2日 島根
出雲市民会館
稲垣 卓 (島根県立湖陵病院 院長)
会長講演「過疎地域における児童青年精神科医療の展開」, 特別講演 (高木隆郎)「登校拒否と現代社会」, シンポジウム「登校拒否と現代社会」, 夜間講演会 (小倉 清, 山崎晃資)「青少年と現代社会」, 一般演題60題, 1010人 (正会員228, 当日782) 参加
- 第25回 1984 (S59) 年10月27・28日 京都
京都府立勤労会館
高木隆郎 (高木神経科医院 院長)
会長講演「わが国における児童青年精神医学の今後の課題」, 特別講演 (川端利彦)「子ども観と精神科医療」, シンポジウム1「青年期の摂食障害」, シンポジウム2「児童青年精神医学教育」, 夜間講演会 (井村裕夫, 笠原 嘉)「Anorexia nervosa についての研究の最近の進歩」, 一般演題62題, 852人 (学会員411, 当日390, 学生51) 参加
- 第26回 1985 (S60) 年10月30・31日 神奈川
神奈川県立音楽堂・横浜市教育会館
牧田清志 (東海大学 教授)
スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」
会長講演「児童精神医学と学校教育」, シンポジウム「学校保健における児童精神科医の役割」, パネルディスカッション「学習障害をめぐる」, 夜間講演会 (若林慎一郎, 大出光郷)「登校拒否」, 一般演題57題, 686人参加
- 第27回 1986 (S61) 年11月2・3日 福島
福島市公会堂
熊代 永 (福島県立医科大学 教授)
スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」
会長講演「福島県における児童精神科医療の現状と展望」, 夜間講演 (川端利彦)「自殺の背景」, 夜間講演 (大原健士郎)「子どもの自殺, その予防と治療」, シンポジウム1「児童青年精神科医療における倫理と人権問題」, シンポジウム2「『いじめ』をめぐる諸問題」, 一般演題58題, 621人 (正会員340) 参加
- 第28回 1987 (S62) 年11月1・2日 大阪
大阪国際交流センター
藤本淳三 (大阪府立中宮病院松心園 園長)
スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」

会長講演「ある思春期病棟からの20年の報告」、シンポジウム「児童青年期における性の問題」、一般演題64題、707人(正会員368)参加

第29回 1988 (S63) 年10月21・22日 福岡
県立福岡勤労青少年文化センター
村田豊久(村田クリニック 院長)

スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」

会長講演「子どもの病態と治療構造—わたしの経験から—」、夜間講演(徐 澄清)「気質特徴と児童精神医学」、シンポジウム「現代社会と子どもの病理—比較文化の視点から—」、一般演題100題、635人参加、症例検討始まる

第30回 1989 (S63) 年11月16・17・18日 静岡
浜松市福祉文化会館

大原健士郎(浜松医科大学 教授)
スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」

特別講演(なだいなだ)「日本の家族」、夜間集会(河合 洋)「現代の子供を考える」、シンポジウム「児童青年精神医学における現代家族の問題点」、一般演題92題、615人(正会員408)参加

第31回 1990 (H2) 年7月16—20日 この期間
中17日午後には本学会総会を開催 京都
国立京都国際会館・第12回国際児童青年精神医学会総会

小池清廉(京都府立洛南病院 院長)
スローガン「わが国の児童青年精神科医療の確立をめざして」

シンポジウム「自閉症の療育」(国際学会会期中)

国際学会：41カ国、一般演題620題、1391人(海外445, 国内946)参加

第32回 1991 (H3) 年10月24・25・26日 岐阜
岐阜市民会館

若林慎一郎(岐阜大学 教授)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめざして」

会長講演「わたしの児童精神医学の歩み」、特別講演(山下英三)「登校拒否、子どもたちの伴走者として」、シンポジウム「乳幼児精神医学の展開にむかって」、一般演題101題、589人参加

第33回 1992 (H4) 年11月4・5・6日 神奈川
神奈川県民ホール・横浜市開港記念会館
平田一成(神奈川県立こども医療センター部長) スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめざして」

会長講演「私が出逢った子どもたち」、招待講演(Tao Kuo-Tai)「中国における児童精神医学の実際—3億8千万人の子どもたちと向き合って—」、招待講演(Kang-E. M. Hong)「韓国の児童精神医療の実際—今日の子どもたちが直面している問題—」、シンポジウム「児童虐待をめぐる—変貌する社会・家庭・子ども—」、一般演題109題、750人参加

第34回 1993 (H5) 年10月21・22・23日 新潟
新潟県民会館・メルパルク

増村幹夫(新潟県立療養所悠久荘 院長)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめざして」

会長講演「のぎく学園の25年—児童青年精神科医療施設のあゆみ—」、特別講演(河合雅雄)「家族とは何か—霊長類の社会進化から考える—」、招待講演(We-Tsues Soong)「台湾の学校精神保健における児童精神科医の役割」、シンポジウム「不登校をどう考え、どう対応するか」、一般演題91題、570余人参加

第35回 1994 (H6) 年10月26・27・28日 東京
日本都市センター

中根 晃(東京都立梅ヶ丘病院 院長)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめざして」

会長講演「児童精神病理学のアプローチ」、記念講演(融 道男)「精神分裂病の生物学的研究」、シンポジウム「子どもの分裂病」、一般演題92題、709人参加

- 第36回 1995 (H7) 年11月1・2・3日 岡山
岡山衛生会館・三光荘
古元順子(岡山大学 教授)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめぐして」
会長講演「障害児の精神科医療と教育」, 特別講演(C. Gilberg)「Autism and its Spectrum Disorders」, シンポジウム「自閉症とライフサイクル」, パネルディスカッション「災害と子どもの精神保健」, 一般演題105題, 738人参加
- 第37回 1996 (H8) 年10月30・31日・11月1日 山形 山形市中央公民館・生涯学習センター
十束支朗(山形大学 教授)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめぐして」
会長講演「山形大学における20年間の児童青年精神科臨床を振り返って」, 特別講演(山上敏子)「手立てとしての行動療法」, シンポジウム「子どもの神経症とその治療をめぐって」, 一般演題112題, 600人参加
- 第38回 1997 (H9) 年11月6・7・8日 福岡 産業医科大学
阿部和彦(産業医科大学 教授)
スローガン「21世紀の児童青年精神科医療をめぐして」
会長講演「診療と疫学調査からみた小学生」, 特別講演(B. Nurcombe)「A Conceptual Model of Child Sexual Abuse」, シンポジウム「学童期の精神疾患をめぐって」, 一般演題131題, 667人参加
- 第39回 1998 (H10) 年10月28・29・30日 東京 北とびあ
牛島定信(東京慈恵会医科大学 教授)
スローガン「21世紀を前にして、いま何をなすべきか」
会長講演「現代の青年期病態をどうとらえるか」, 特別講演(A. Bergman)「米国における児童分析の現状」, シンポジウム「現代青年達の人格発達に見られる諸問題」, 一般演題116題, 740人(学生39)参加
- 第40回 1999 (H11) 年10月20・21・22日 札幌 札幌市教育文化会館
設楽雅代(市立札幌病院静療院 院長)
会長講演「発達障害へのアプローチ-静療院の実践を通して」, 特別講演(河合隼雄)「思春期の心理療法」, シンポジウム「青年期の臨床は今一現場における具体的対応で見えてくるもの一」, 一般演題145題, 853人参加
- 第41回 2000 (H12) 年10月25・26・27日 三重 三重県総合文化センター
清水将之(三重県立小児診療センターあすなろ学園 園長)
スローガン「子どもの時代へ」
会長講演「21世紀の子どもへ」, 記念講演(養老孟司)「子どもの心の発達と脳」, 招待講演(D. Steinberg)「青年の元型と青年期精神医学の将来」, シンポジウム「新しい子ども観に向けて」, ミニ・シンポジウム「学校精神保健」, 一般演題146題, 1085人参加
- 第42回 2001 (H13) 年10月24・25・26日 金沢 金沢市中央公民館
越野好文(金沢大学 教授)
スローガン「21世紀の子どもたちに幸せを」
会長講演「児童青年期の不安障害」, 特別講演(柳田邦男)「子どもの死-子どもの意識と『2人称の死』の視点一」, シンポジウム「注意欠陥/多動性障害(ADHD)」, 一般演題121題, 819人参加
- 第43回 2002 (H14) 年11月27・28・29日 東京 日本都市センター
佐藤泰三(東京都立梅ヶ丘病院 院長)
スローガン「児童青年精神科医療の新たな展開を目指して」
会長講演「児童青年精神科医療の現状と動向」, 記念講演(J. Biederman)「Life Cycle of ADHD」, 特別講演(村瀬嘉代子)「心の糧と子ども時代」, シンポジウム「子どもの攻撃性と脆弱性」, 一般演題148題, 1015人(会員626, 当日会員, 338, 学生51)参加
- 第44回 2003 (H15) 年10月22・23・24日 福岡

福岡国際会議場

西村良二（福岡大学 教授）

スローガン「児童青年精神科医療の確立と進展に向かって」

会長講演「思春期の子どもたちの心の理解と家族」、特別講演(C. W. ニコル)「森の時間」、シンポジウム「子どものPTSD」、一般演題162題、893人（当日会員を含む会員849、学生44）参加

第45回 2004（H16）年11月3・4・5日 名古屋 名古屋国際会議場

本城秀次（名古屋大学 教授）

スローガン「児童青年精神医学の深化に向けて」

会長講演「名古屋大学における児童青年精神医学」、特別講演(D. Pauls)「Approaches for the Genetic Study of Children and Adolescent Psychiatric Disorders」、特別講演(高橋 脩)「障害児の発達支援と家族支援—現状と展望—」、シンポジウム1「自閉症の原因を考える」、シンポジウム2「解離性障害」、シンポジウム3「乳幼児精神医学」、一般演題130題、1311人（一般1171、学生140）参加、この回から教育講演の数が大幅に増加

第46回 2005（H17）年11月9・10・11日 神戸 神戸国際会議場

白瀧貞昭（武庫川女子大学 教授）

スローガン「こどもの精神保健の拡充を目指して」

会長講演「児童青年精神医学の方法論のパラダイム変換—縦断的、前方視の方法の提唱—」、特別講演(J. Sergeant)「Attention Deficit Hyperactivity Disorder: Does it exist and can it be treated?」、特別講演(森田洋司)「私事化社会の子どもたち—諸問題への社会的視点からの理解と対応の在り方再考—」、シンポジウム1「学校精神保健の課題」、シンポジウム2「青年期軽度発達障害への支援を考える」、一般演題166題、1148人（一般1059、学生89）参加

第47回 2006（H18）年10月18・19・20日 千葉

幕張メッセ国際会議場

齊藤万比古（国立精神・神経センター国府台病院 部長）

スローガン「守ること 育むこと」

会長講演「不登校の児童青年精神医学的観点」、特別講演(大林宣彦)「子供たちと創る、あした」、特別講演(牛島定信)「子どもの人格形成の障害をめぐって—ことに前青年期の意義—」、シンポジウム1「子どもの心の専門家を育てるために」、シンポジウム2「強迫性障害をめぐって」、シンポジウム3「ADHDの支援の仕方・支援の場」、シンポジウム4「地域連携システムの可能性と問題点」、シンポジウム5「反社会的問題行動を示す子ども達への支援」、一般演題174題、1257人（一般1193、学生64）参加

第48回 2007（H19）年10月30・31日、11月1日

岩手 岩手県民会館

山家 均（岩手県立南光病院 院長）

スローガン「児童青年精神医学・医療の広範な展開をめざして」

会長講演「児童青年精神医学・医療の広範な展開をめざして」、特別講演(杉山登志郎)「広汎性発達障害とその周辺：社会性の障害をめぐって」、特別講演(福島靖正)「厚生労働省における発達障害児・者施設について」、特別講演(工藤和子)「歌の心をさぐる—歌に見る子どものこころ・親のこころ—」、シンポジウム1「自閉症の周辺」、シンポジウム2「児童青年精神医学の診断学をめぐって」、一般演題180題、943人参加

第49回 2008（H20）年11月5・6・7日 広島 広島国際会議場

松田文雄（松田病院 院長）

スローガン「絆と連帯」

会長講演「イジメラレーズ」、特別講演(福島靖正)「児童青年精神医学の領域にかかわる厚生労働省の取組」、特別講演(山崎晃資)「特別支援教育と“いわゆる”軽度発達障害」、特別講演(山脇成人)「幼少時期のト

ラウマ体験とストレス脆弱性—脳科学から見た最近の話題—, シンポジウム1「子どもの双極性障害をめぐって」, シンポジウム2「絆と連帯—子どもを守るために—」, シンポジウム3「子どもの自殺」, シンポジウム4「自傷行為と攻撃性」, 一般演題211題,

1270人参加

第50回 2009 (H21) 年 9 月 30 日・10 月 1・2 日
京都 京都国際会議場
門 眞一郎 (京都市児童福祉センター 副
院長)